

京都市市民参加推進フォーラム 令和2年度第1回「市政参加」検討部会 摘録

■開催日時：令和2年7月30日（木） 午後3時00分～午後5時00分

■開催場所：職員会館かもがわ2階 和室中広間

■議題：

- (1) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について
- (2) 「市民意見を聴く場」の開催について

■報告事項：

なし

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員8名

(内田委員, 木村委員, 嶋倉委員, 橋本委員, 壬生委員, 森実委員)

(Zoom参加：乾委員, 兼松委員)

■オブザーバー参加者<市民協働ファシリテーター(市職員)>：1名

■傍聴者：0名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し、後日、音声配信を実施する。
Zoomを用いたオンライン参加と併用して開催した。

【議事内容】

1 開 会

2 部会長挨拶

<壬生部会長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

3 議題

議題(1) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について

< 壬生部会長 >

事務局から資料の説明をお願いします。

< 事務局 >

(資料1「第3期「京都市市民参加推進計画」の施策(案)」, 資料2「部会ワークシート(提言書)」説明)

< 壬生部会長 >

本日議論する内容について, 何か質問や確認したいことがあればお願いしたい。

< 森実委員 >

3つの円が重なっている図に何か意味はあるのか。

< 事務局 >

「はじめる」「つながる」「ひろがる」という3つの参加段階があり, それが相互作用しあうことを表した図になっている。

< 木村委員 >

「市政」とは何か。市役所がやっていることのすべてが市政なのか。

< 事務局 >

京都市の行政が行っていることのすべてという認識で合っている。

< 木村委員 >

市政は幅広いが, 現在のコロナ禍の状況において, どこに重点項目を置くのかが示されるといいのではないか。

< 事務局 >

コロナは, 市政全体に関わる社会情勢だと思う。

< 壬生部会長 >

提言書作成に向けて, ご意見をいただきたい。

<乾委員>

自分たちのまちの経営に参画する（市政参加）というマインドが、より多くの方に広がることが重要だと思う。

<嶋倉委員>

京都市職員の方と話した際に、思っていたよりも考え方が柔軟だと感じた。高校生や大学生が京都市職員と触れ合う機会があると、公務員や市政参加に対する硬い印象が変わるのではないかと。

<壬生部会長>

どうすれば、硬い印象を払拭できると思うか。

<嶋倉委員>

大学の授業やゼミの中で、市職員の仕事について知る機会があると良いのではないかと。

<橋本委員>

市政参加のイメージがわきにくい。投票、パブリックコメント以外に何があるのか分からないというのが現状ではないかと。

<壬生部会長>

施策案4に直接関係する内容であり、どう伝えていくかは大きな問題だと思う。

<橋本委員>

京都新聞で読者がリクエストすると取材されて記事が掲載されるような、関わったことの過程と結果が見えることが重要だと思う。関わった結果が見えることで、参加が広がっていくのではないかと。

<森実委員>

市民が声をあげた時に、レスポンスが返ってくることが大事だと思う。今は、行政が課題を自ら見つけて解決するだけでなく、市民と一緒に解決する過程が大事なのではないかと。市が設定した審議会で見解をもらうだけで良いのか。例えば、保育であれば、問題は日常的に現場で起きている。改めて学者の意見を聴かなくても、現場で起きている問題を市の政策に取り入れる方が大事ではないかと。日常的な市民の声を活かした市政運営が、市政参加だと思う。日常的な市民の声を受け止める覚悟が市にあるのか、そして、その声に対してレスポンスできているかを、日常的に市は発信すべきだと思う。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

市民の声を現場で受け止めるだけでなく、多くの声が集約されて政策にどのように反映していけるかが大事だと思う。

<内田座長>

米国ホワイトハウスの嘆願サイトのように、市民の声が上がった時に、その声がスピーディーに見える状態になり、課題として共有されることは大事だと思う。

<木村委員>

歴史的に見ても京都市民は多様である。地域や年代などで対象を層別しないと、市政参加を促すのは難しいのではないかな。

<壬生部会長>

市民の特性にあった市政参加の方法を考え、各区の取組が市民により浸透すると良いのかもしれない。

<木村委員>

京都市に引っ越した時に、京都市の電話サービス（京都いつでもコール）が役立った。あまり知られていないので、そのようなこともアピールできると良いのではないかな。

<乾委員>

市民参加には、複数の段階があると整理されている（参考：アーンスタインの「市民参加のはしご」）。形式的な参加から住民の主体的な参加へと段階を上げる方法、住民のマイノリティの問題、行政が市民にどこまで委ねるのかの関係性などの観点がある。このような考え方をイメージすることで、議論が建設的にできると思う。

<森実委員>

現在の政治のシステムは代議制である。市民が選んだ代表者による議会で、市の予算は決められる。市政参加との関係をどう考えるか。

<乾委員>

市長の市政運営機能と議会のチェック機能とある中で、議会も含めて政策立案力が高まり切磋琢磨するという視点は重要だが、話が大きくなり過ぎて議論が難しい。まずは、行政（京都市）と市民がどのように連携して、自分たちのまちを良くしていくのかを考えることから始めるのが良いと思う。

<兼松委員>

「市民参加のはしご」でいうと、真ん中の「形式だけの参加」はできていると思う。足りないのは、「気づいたら市政参加している（” うっかり市政参加”）」状態を作ることと、「市政参加を本気で市民が取り組み、成果（新しい条例制定）が出る」象徴事例を作ることだと思う。可処分時間のいつ市政参加をするのか。「仕事や授業の間に、いつの間にか市政参加していた」という状態をいかに作り出すのが大事だと思う。

<壬生部会長>

真面目に市政参加しようとするほど、「学ぶ場」が求められると思う。また、学生と話をしていると、関心のある政策に関するパブコメなどが常にある訳ではないため、市政参加するタイミングが合わないという問題もあるようだ。タイミングが合わないから参加していない市民に、少しでも関わってもらう方法を考えると良いのではないかと思う。

<内田座長>

去年のフォーラム会議で、外国籍の人はどのように市政に意見を届ければ良いのか分からないという意見が出た。施策案 6 で、世代にフォーカスが当たっていて、属性の視点が欠けているのではないかと思う。

<兼松委員>

前フォーラム委員で外国籍のハッカライネン・ニーナさんが、京の公共人材大賞に選ばれていた。15年かけて行政を動かすほどの活動になったことが、凄いと思った。

<乾委員>

ニーナさんは、外国籍の方向けのパンフレットを作られていた。行政の支援もあったと思うが、自分たちで力を蓄えて活動を継続し、その結果が結実したと思う。

<内田座長>

市民の自主的な活動をどのように継続していくのか、力を蓄えた NPO に対する行政の次のサポートは何なのか、という話は、まちづくり部会と共通する話だと思う。

<兼松委員>

市民活動をサポートする行政ではなく、市民にサポートされたい行政の時代だと思う。

<森実委員>

「学ぶ場」という意見もあったが、市民が必要な情報を調べられるように、適切なタイミングで情報公開していくのが大事だと思う。

< 壬生部会長 >

引き続き議論が必要な場合には、メールや Slack 等を用いて、ご意見をいただきたい。

議題 (2) 「市民意見を聴く場」の開催について

< 壬生部会長 >

それでは、議題 2 「「市民意見を聴く場」の開催について」に移りたい。事務局から説明をお願いします。

< 事務局 >

(資料 3 「部会ワークシート (市民意見を聴く場)」説明)

< 壬生部会長 >

開催方法 (オンラインでの複数回のグループディスカッション) やテーマ内容について、ご意見をいただきたい。

< 橋本委員 >

ユニバーサルデザインは良いと思うが、テーマ内容が広すぎるのではないか。外国籍の方、障害のある方など、範囲設定した方が良いかもしれない。

< 市民協働ファシリテーター (市職員) >

フォーラム委員が困ったことや市民意見として聞きたいことを、まずはざっくばらんに挙げてみても良いのではないか。

< 木村委員 >

新しいマンションに引っ越したが、市民しんぶんも入らず、自治会や町内会の入り方が分からなかった。防災情報などは町内会に入らないと手に入らなかった。マンションや賃貸物件に住んでいて、町内会に入っていない人の話を聞きたい。防災をきっかけに、町内会に入ってもらえるのも 1 つの方法だと思う。

< 嶋倉委員 >

市政参加に全く興味のない学生に関心を持ってもらうのが大事だと思うが、そもそも関心のない方を呼ぶことが難しい。

< 兼松委員 >

京都市内のシチズンシップ教育を実践している小学校や中学校で、市政参加を体験する授業をどうすれば必修科目にして展開できるのかを知りたい。

企業活動と市政参加について、SDGsなどで京都市と連携している企業の担当者に、うっかり市政参加してしまう企業向けプログラムの可能性について聴いてみたい。

<乾委員>

8月後半から9月初旬の開催時期に議論しておけば、後期の大学の授業で、その内容を盛り込める可能性がある。いきなり学生に市政参加に関わってもらうのは、ハードルが高いと思うので、教員から関わってもらうのが良いかもしれない。

<壬生部会長>

IT関係のエンジニアを集めて、アイデアソンができないか。LINEなどを使うと、うっかり市政参加を促進できるのではないかと思う。

<乾委員>

企業の市政参加も面白いと思う。企業としての市政参加の方が参加者を募りやすいかもしれない。昼間は企業人しか存在しないエリアもあると思う。企業市民に参加していただくのも面白いかもしれない。

<兼松委員>

メディアと市政参加の観点で、新聞に掲載されると多くの方に目にしてもらえる。市政参加の「希望」の部分について、どうすればメディアに掲載されて、市民の目に触れる機会を増やせるのかを知りたい。どのような市政参加の内容であれば、ニュースにもらえて情報発信してもらえるのか。

<森実委員>

具体的であることが大事。今回の計画は、これまでと何が違うのか、何をやるのが大切である。

<壬生部会長>

開催方法は、複数回のグループディスカッション形式で行うこととしたいが、開催時に気をつけた方が良いことはないか。

<市民協働ファシリテーター(市職員)>

テーマに関わる、又は関心のある市職員も参加できるようにすると良いのではないかとと思う。現場にいる市職員が市政参加について知る良い機会にもなると思う。

<壬生部会長>

参加したいテーマはあるか。

<兼松委員>

自分の出したテーマはすべて関心がある。

<乾委員>

シチズンシップ教育やSDGsに関心がある。

<嶋倉委員>

シチズンシップ教育に関心がある。

<木村委員>

どれも関心がある。

<橋本委員>

どれも関心があるが、外国籍の方の市政参加には特に関心がある。

<森実委員>

多様な属性の方の市政参加に関心がある。

<壬生部会長>

開催方法は、事務局案で行う。テーマに関わっている又は関心のある市職員の方にも参加していただきたい。まちづくり部会との情報共有は、メール又はSlackを用いて行う。

以上で本日の議題は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

4 閉会

<事務局>

本日も闊達な御意見、ありがとうございました。引き続き、市民意見を聴く場の開催に向けて、活発な議論をお願いしたい。

以上